◎学生委員会

学生主事　檀上光昭

1．　平成１７年度運営目標・方針

1．1　基本的な考え方

［1］　全教職員が協力して学生指導に当たる。

［2］　学生、教職員も含めて、自分たちの学校は自分たちで良くして行くよう努力する。

1．2　学生指導に関する目標

［1］　社会ルールの遵守とモラルの向上

［2］　課外活動の活性化

［3］　総合文化祭支援体制の整備

2．　平成17年度実施計画

2．1　学生指導

［1］　登校指導、挨拶運動の徹底

（1）　最低週一回の登校指導の継続

２週間に１回の全教員への割り振りによる指導、夏休み明けの連続１週間の指導、及び後期からの学生委員（主事、主事補）による週１回の指導、学生委員による随時の指導、学生会の月 1 回の指導などを通して年間 40 回以上の登校指導を実現できた。

（2）　教職員へ「学生への挨拶」の依頼

運営会議、教員会、新任研修を通して、依頼してきた。しかし、まだ全員が会う学生ごとに挨拶の声掛けを行うところまでは至っていない。

（1）（2）を通して、学生の方から挨拶をしてくる例が、すこしずつではあるが増加しているので、これらの活動を継続して行う必要がある。

［2］　1, 2年生の茶髪、ピアスの指導の徹底

（1）　教職員および担任への指導依頼

担任等の指導に学生会の登校時の指導があり、1 年生についてはほぼ指導の徹底ができたが、2 年生についてはまだ不満の残る状況であった。

（2）　指導結果の確認とフィードバック

個別の情報のフィードバックはあったものの、体系的な体制をつくることはできなかった。

低学年教育委員会での議論を通じて、指導に従わない学生に対して、担任等→主事補（教務、学生、寮務）→学生委員会の順に指導して行く体制ができたことは収穫であった。

［3］　アルバイト指導の徹底

（1）　教職員および担任への指導依頼

担任連絡会、教員会などを通して依頼してきた。

（2）　指導結果の確認とフィードバック

体系的な体制を作ることができなかった。

（3）　届け出様式の改善

わかりにくい書き方の部分を一部改善した。

上記の試みは行ったものの、届け出は昨年度と同じような状況であった。実際の数の約１／４程度の届け出であった。アルバイトの届け出に対する抜本的な対策が必要である。

[4] 共用施設の利用ルールの徹底

（1） 利用ルールの周知

トレーニング室、体育館等についてはロッカールームなど一部の施設での清掃状態に問題が生じた。

（2） 定期的な施設の点検

担当者を通して、行ってきたが、必ずしも徹底して行われなかった。

一部施設での使用に問題が生じた。定期的な点検のルールを作り、徹底する必要がある。

[5] 盗難防止対策

（1） 昨年度作成した盗難防止対策の励行

貴重品の管理の徹底、盗難届の励行などの担任等への指導依頼と盗難・紛失情報の掲示板等へのフィードバックを行ってきた。その結果昨年度に比べて財布等の金品の盗難は減少したものの自転車の盗難は減少させることができなかった。また、盗難届の未提出も見受けられた。

自転車の盗難被害が、自転車の無断借用などの加害者になる例が多く、これも徹底した指導が必要である。

[6] 学生の服装を含む身だしなみ、および食べ歩き、ポイ捨てなどの対策

（1） 教職員への指導依頼

依頼は行ったものの、現状のフィードバック等の情報を通して依頼することはできなかった。特に北門や西門周辺でのポイ捨て、タバコの吸殻、などが改善されなかった。

（2） 巡回時の指導

巡回時に適宜指導して頂いたものの、散発的なものに終わっている。

身だしなみなどのきちんとした指導ルールを作り、学生教職員への周知を図る必要がある。

[7] 万引き、窃盗、交通マナー（自転車の二人乗りなど）

（1） 教室等へのポスターの掲示

ポスター掲示は行えなかった。

（2） 教職員への指導依頼

新居浜駅周辺での、駐輪指導を列車通勤の教員に依頼し、駐輪違反の減少に成果を上げることができた。

（3） 巡回時の指導

二人乗りなど多くの教員が巡回時に限らず、見かけたとき注意をするようになったが、あまり改善はされなかった。

教職員の指導が効果があるような、学生との人間関係を構築することが急務であ

る。

[8] 喫煙対策

(1) 喫煙者に対する個別指導の導入

一般教室棟での喫煙情報を受けて、学生委員による巡回を1，2月に行った。実際の喫煙者を発見することはできなかったが、タバコの吸殻を多数トイレで発見した。その情報をメールで全教員に連絡して、指導を依頼した。その後の巡回ではタバコの吸殻はほとんど発見されなかった。

指導した学生に対して、自己記録簿の記入を義務づけ、自らの反省を促した。

(2) 禁煙外来指導の徹底

指導した全学生(12名) 全員が禁煙外来を受診した。

(3) 禁煙教材を利用した禁煙指導の導入

いくつかのクラスでの散発的な指導に終わった。

禁煙教材を使用した、体系的な取り組みが必要である。

[9] 目標には掲げてないが実施した項目

(1) 保健だよりの発行

総合的な健康維持活動として、保健室と協力して、保健だよりを年7回発行した。

(2) 低学年に対する血液検査の実施

学校医の指摘を受けて、専攻科1年生及び本科4年生のみならず、2年生に対して血液検査を実施した。低学年の生活習慣によるであろうと思われる、症例の発掘ができた。また、高学年の症例との比較を行うことができた。これらの結果については保健だよりによって、学生にフィードバックした。

2.2 課外活動の活性化

[1] チャレンジプロジェクト、ロボコン、プロコンなどの企画への支援システム

(1) 広報活動の徹底

いずれも年度当初から、ポスターなどの掲示を通して参加を呼びかけた。ロボコン、プロコンについては学内でのアイディア募集とその審査を実施した。しかし、参加者の増加を図ることはできなかった。より効果的な広報活動が必要である。チャレンジプロジェクトについては、前年度末からの広報を開始した。

(2) 関連した情報の積極的な収集とその開示

ロボコン、プロコンについては昨年度の大会のようすなどを DVD などで情報開示した。また、チャレンジプロジェクトについては年度末の学生大会において実施報告を行った。

[2] 部活指導のあり方についての議論の深化

(1) 教員の意識の統一に向けた努力

クラブ活動安全指導、全員顧問などを通して、クラブ指導への意識の向上が図れた。

(2) クラブ顧問との定期的な会合

個別の相談に終わり、定期的な会合は持つことができなかった。

(3) アンケートによるクラブ活動の実態把握

アンケート調査は行えなかった。

(4) 全員顧問制についての検証

体系的な検証を行うことはできなかった。来年度の課題である。

(5) 課外活動のPR

新入生クラブ紹介、ホームページなどを通しての PR を呼びかけたが、クラブ活動参加者が昨年度とほとんど変わらないことから、あまり成功したとはいえない。

クラブリーダー研修会を年度末に行うことができた。そこで、来年度の目標、実施計画の提出を依頼し、また、積極的な PR 活動を依頼した。

[3] 学生会活動の活性化

(1) 学生会および国領祭担当教員の設置

担当教員を決め、学生会や国領祭関係の会議等に積極的に参加して指導した。

(2) 代議員会の定期的な開催依頼

担当教員を通じて、依頼を行ったが、出席率が悪く、継続して実行することはできなかった。

(3) 学生委員会と学生会との定期的な交流会の開催

定期的な交流会は行えなかったが、適宜学生委員会に学生会長が出席するなどして、意見の交換をおこなった。

(4) 学生会へ校門挨拶運動の実施を依頼

月に1回、茶髪・ピアスの指導を含めて実施した。

(5) リーダー研修の実施

年度末ではあるが、来年度学生会執行部及びクラブ部長に対して、2回に分けて実施した。また、体育系クラブの部長に対して、AED の使用法も含めて、救命、救急のための安全講習会を実施した。

(6) 総合文化祭に向けた準備の指導

担当教員を通して指導した。その結果、大したトラブル無しに実行することができた。反省点としては、国領祭の日程とのこともあり、早めの準備がうまくできなかったことがある。

(7) 校歌を全員が歌えるよう学生会へ依頼

後期から昼休みに校歌を校内放送し、全員へ周知させることができた。

[4] 文化部活動の活性化

(1) 発表機会の増加

総合文化祭での発表にとどまった。クラブ部長のリーダー研修会を通して、来年度の複数回の発表機会を依頼した。また、学生会でも予算の執行にあたって、複数回の発表を義務づける対応を打ち出している。

(2) 良い作品の表彰

これも総合文化祭での作品の表彰に留まった。

[5] 帰宅部対策

(1) 部活のPRによる参加呼びかけ

新入生クラブ紹介、ホームページなどを通しての PR を呼びかけたが、クラブ活動参加者が昨年度とほとんど変わらないことから、あまり成功したとはいえない。

(2) チャレンジプロジェクト、ロボコン、プロコンなどの企画を通しての参加呼びかけ

いずれも年度当初から、ポスターなどの掲示を通して参加を呼びかけた。ロボコン、プロコンについては学内でのアイディア募集とその審査を実施した。しかし、参加者の増加を図ることはできなかった。より効果的な広報活動が必要である。チャレンジプロジェクトについては、前年度末からの広報を開始した。

[6] 学生と地域との交流の推進

（1） **ボランティア活動の支援と推進**

大学、高専、地域でのボランティア活動の情報収集を行い、散発的ではあるがボランティアの募集を行った。しかし、組織だった支援の仕組みを作ることはできなかった。来年度の課題である。

［7］ **専攻科学生の広報活動支援（国領祭での発表機会など）**

国領祭での発表を依頼し、学生会へ依頼して、予算的な措置も行った。しかし、自ら進んで広報活動を行おうとする、雰囲気を作り出すことはできなかった。

2．3 総合文化際支援体制について

［1］ **参加学生の支援**

主として参加クラブ顧問を通して、指導した。協力補助学生については学生委員会で指導を行った。協力学生の一部にきちんと自分の持ち場を守れなかった者があったが、概ね協力して実施することができた。

［2］ **学内準備体制の整備**

学生主事補を中心とした組織を前年度より立ち上げ、７月末に全学的な準備体制を整えることができた。準備体制の確立までに時間がかかったが、夏休み明けからの努力により、カバーすることができた。

○ 総括的な評価と課題

1． 評価

挨拶運動など少しづつではあるが、成果が現れてきているものもあるが、全体的にみてまだまだ不十分である。教職員に対するさらなる学生指導の依頼と、組織だった対応が必要である。

2． 課題

上記の反省点を通して、以下の課題が残った。組織的な取り組みを通して、解決を図って行きたい。

（1）より効果的な挨拶運動
（2）効果的な巡回指導
（3）盗難対策（特に自転車に対する）
（4）車両許可や授業料免除等とのリンクを通しての各種届け出の励行
（5）学生の部活、チャレンジプロジェクト等への参加割合の増加
（6）車両違反、駐輪違反などの指導
（7）服装身だしなみの指導の基準作り
（8）アルバイト、茶髪・ピアスの指導の徹底